

音楽の持つ力

県教育庁 教育次長

日比 謙一郎



マンドリンという楽器をご存知でしょうか。無花果を縦に割ったような形をしており、松や楓等の木材でできた本体にスチール弦が八本の四コースで、鼈甲のピックにより二本同時に弾いて演奏します。トレモロ奏法（手首を小刻みに動かして細かい音を連続させる奏法）では、哀愁を帯びたノスタルジックな音色が響きます。十七世紀にイタリアで発祥し、日本には明治期に流入し、現在では学校の部活動や社会人のサークル活動として全国に普及しており、私は高校でこの楽器に出会って以降約二十五年間弾き続けています。

どんな楽器でも、あるいは合唱でも共通することだと思いますが、仲間と共に音楽を奏でることには、かけがえのない幸せがあります。

①人と呼吸を合わせて音を重ねた時の爽快感やハーモニーの心地良さを体感できる。

②家庭や職場だけでなく多様な世界の人と交流でき、人間としての幅が広がる。

③お客さんに自らの表現を聴いてもらい、そして喜んでもらうことができる。

私は岡山に来てから、岡山大学ギターマンドリンクラブの練習に加えてもらったり、県教委で楽器ができる人を集めてバンドを組み、職場

の懇親会で演奏したりしています。職員が盛り上がり、一体感を醸成することにつながっていれば幸いです。

さて、七月の豪雨災害により、これまで経験したことのないような被害がありました。亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

今回の災害では、大人だけでなく岡山県の中高校生や大学生が、ボランティア活動に積極的に取り組んでくれました。困ったときはみんなで助け合う、自らできることを行動に移すという文化を、岡山が誇れる県民性として継承していきたいら、すばらしいことではないでしょうか。

先日、被災経験を克明にブログに残されている方に、直接お話を聞く機会がありました。命は助かったものの家を失い、生活は守れなかつたと悔やむその方は熱烈なフアジサポで、まずは衣食住という状況にあっても、フアジアーノ岡山の活躍を心の支えにしています。

被災された皆様が日常生活を取り戻すまでの道のは長いですが、スポーツや音楽も、県民の皆様に元気や癒しをもたらすために貢献できるものと信じて、私なりにボランティア活動をしたいと思っています。